1　芳賀町の概要

芳賀町は、栃木県の南東部に位置し、都心から100km圏内にあり、東は市貝町、西は宇都宮市、南は真岡市、北は塩谷郡高根沢町に接しています。東西約8.6km、南北約14.2kmで総面積は70.23km²です。町の平野部には五行川、野元川が貫流し、水利に恵まれているため豊かな水田地帯が形成され、栃木県の代表的な米の産地となっています。

一方、東部、西部地帯は台地で果樹や野菜をはじめ、施設園芸や畜産などの都市近郊型農業が営まれ、なかでも県内有数の生産高を誇る幸水・豊水などの梨は“芳賀梨”として有名です。

古くは奥州への街道の道すじにあたり、宿場町として栄えた芳賀町の旧村も明治維新を経て、明治22年４月町村制施行により町村合併が行われ、祖母井町、南高根沢村、水橋村が成立しました。

その後、昭和29年３月に１町２村が合併し、芳賀町が誕生して現在に至っています。

昭和54年には芳賀・高根沢工業団地に本田技術研究所が立地し、さらに昭和63年には248haという広大な面積をもつ芳賀工業団地が完成。現在、約100社の企業が操業しており、農業の町から農・工・商業の調和のとれた町へと前進を続けています。

また、平成７年９月には町民の健康づくりと元気アップを目的に「芳賀温泉ロマンの湯」が、平成13年４月には交流体験センター「友遊はが」がオープンし、多くの人に利用されています。

本町の生活圏・経済圏の拠点都市は、西に隣接する宇都宮市と南に隣接する真岡市で、これら都市への交通網は東西に走る国道123号線、東西南北に走る県道です。宇都宮市へは約18km、真岡市へは約15kmの距離にあり、利便性には恵まれています。